

## はじめに

本報告書は、プロジェクト研究「農村経済活性化のための地域資源の活用に関する総合研究」（平成11～14年度）の成果の一部である。

当プロジェクト研究は、平成13年度からは独立行政法人・農業工学研究所をとりまとめ機関として、農林水産政策研究所および独立行政法人・農業技術研究機構、同・森林総合研究所、同・水産総合研究センターの5研究機関（他に委託1大学）が3つの系と30の小課題を分担して実施されてきた。

農林水産政策研究所は、3つの中課題において5つの小課題を担当するが、今回は、Ⅲ-1-1（1）中課題「地域活力の動向解析と診断指標の策定」に関わる研究成果をプロジェクト研究資料として刊行することとした。

内容は3章で構成され、小課題「地域活性化指標の策定と地域診断手法の開発」と「農村の社会経済変動をもたらす土地等地域資源利用の変動予測」に関して、農村地域の活性度を測る総合指標の作成、農地面積の1999～2015年の変動シミュレーション、地域資源を活用した農村活性化策の一例たるグリーンツーリズムの実態が考察される。これらの論考が今後の農村振興の施策を検討するうえで参考になれば幸いである。

なお、当プロジェクト研究資料としては、既に以下の3号を当研究所より刊行している。

第1号『農村地域でのビジネス起業—欧州での現状と事例—』（平成14年3月）

第2号『住民意思に基づく農村整備—オランダの事例—』（平成14年3月）

第3号『IT社会と農業・農村』（平成15年3月）

今回のとりまとめに当たり、毎年度のプロジェクト研究推進評価会議および各種研究会で中間報告を行った際に、参席者からいただいたご指摘・ご批判が大変参考になった。プロジェクト研究評価委員をはじめ、共同研究の各研究機関、関係行政部局や当研究所客員研究員の方々に対し、厚く謝意を表する次第である。

なお、本報告書の編集事務は藤栄剛研究員が補佐したことを付記する。

平成15年3月

農林水産政策研究所